

水生生物調査

2016年 1月～6月

月 日 時刻	1・16(土)14:40				2・22(月)12:45				3・19(土) 14:30				4・16(土)15:10				5・21(土)14:40				6・19(土)14:30				
場所	水路	Aビ田	Bビ田	小川	水路	Aビ田	Bビ田	小川	水路	Aビ田	Bビ田	小川	水路	Aビ田	Bビ田	小川	水路	Aビ田	Bビ田	小川	水路	Aビ田	Bビ田	小川	
気温	10.7				11.7				17.6				21.1				26.6				25.9				
水温	12.5	14.3	13.1	13.3	12.8	12.6	14.0	—	20.4	16.7	16.1	17.1	16.6	21.4	18.1	19.4	20.8	25.0	24.4	26.9	21.7	25.0	22.9	25.4	
PH	6.8	6.8	6.9	6.9	6.9	6.90	6.8	—	6.9	6.7	6.7	6.5	7.0	6.6	6.5	6.9	7.1	7.2	6.8	7.2	7.1	7.1	7.1	8	
1 ヨコエビ	○				○				○				○				○				○				
2 ミズムシ(ダンゴムシ型)	○				○				○				○				○				○				
3 ミズムシ(ボート型)	○							○														○		○	
4 サホコカゲロウ																	○				○				
5 カクツツビゲラ																									
6 ユスリカ					○				○								○				○				
7 ガガンボ																					○				
8 アメンボ															○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9 プラナリア	○				○				○				○				○				○				
10 ミミズ		○	○					○		○	○		○	○		○	○			○	○		○	○	
11 イトミミズ						○			○		○	○	○	○											
12 ミジンコ												○								○	◎	○			
13 クロゲンゴロウ																					○				
14 ハイイロゲンゴロウ																				○		○	○		
15 ガムシ																									
16 ヤゴ(シオカラ等)					○				○	○	○					○	○			○	○		○	○	
17 カワニナ	○	○	◎		○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18 マルタニシ	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
19 シジミ	○				○				○				○							○					
20 サカマキガイ		○										○									○	○			
21 ドジョウ		○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22 クロメダカ		◎	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
23 オイカワ		◎	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24 アブラハヤ		○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
25 スジエビ		○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
26 ザリガニ		○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
27 サワガニ													○												
28 オタマジャクシ																			○		◎	○			
29 カワモズク					○				○																
30 アオミドロ				○				○	○				○				○			○				◎	
31 サヤミドロ																									
32 その他	ヒル				マメシジミ				マメシジミ							ミズスマシ						マメシジミ			
備考	例年厳冬期に観察されていたカワモズクが観れなかつた。暖冬の影響か。ただし、同じ区内での水路で観察されているので、ここだけにその影響が出るとは考えにくいのだが。	少量のカワモズクを採集できた。良かった。水路の生物を泉区の相川さんに見て頂いた。シジミ、ヨコエビ、プラナリアが外来種であることが、判明した。驚きと同時に残念。	6日、せやっこ体験で「耕地を流れる水路の生物」調べを実施した。生物の活動が少ない時季であったが10種類の生物が観察できた。安定した湧水の貴重さが感じられた。	A地点水路で初めてクロメダカが観察された。順環田ビオトープから相沢川を経由して、ここまでやってきたのだろうか。それとも人によって?再びサワガニが2匹観察された。	B田でイ草が大量に発生した。イネにとっては大敵なので、懸命に除去した。A, B田の溝に一つずつシュレーゲルアオガエルの卵塊が見つかった。以前より減っているようだ。	AB両田んぼ・ビオトープ・小川にたくさんのがメダカが泳いでいる。この環境がめだかにとって生息しやすいものになっているのである。「めだか米」の名にふさわしい。																			